

高齢者インフルエンザ予防接種を受けられる方へ

予防接種法に基づく高齢者インフルエンザ予防接種は、接種を希望する意思が確認できた場合のみ接種を行います。この説明書をよく読んで、予防接種の必要性や副反応についてよく理解し、十分に納得した上で接種してください。

<インフルエンザとは>

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをする事により、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのが特徴です。インフルエンザの流行は、通常、初冬から春先にみられますが、ときには春季、夏季にもみられます。インフルエンザの流行が始まると、短期間的に小児から高齢者までの膨大な数の人を巻き込みます。さらに、普通のかぜが流行しても死亡する方はあまり増えませんが、インフルエンザが流行すると、特に 65 歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率が普段より高くなるという点でも普通のかぜとは異なります。

<インフルエンザ予防接種の効果>

インフルエンザ予防接種を行うことで、インフルエンザによる重篤な合併症や死亡を予防し、健康被害を最小限にとどめることが期待できます。このワクチンの効果は、年齢、本人の体調、そのシーズンのインフルエンザの流行株とワクチンに含まれている株の合致状況によっても変わります。65 歳以上の高齢者に対して行った調査では、予防接種を受けていればインフルエンザにかからずに済んだこと、また、予防接種を受けていれば死亡せずに済んだことなどが報告されています。

日本では、インフルエンザは例年 12 月～4 月頃に流行し、例年 1 月末～3 月上旬に流行のピークを迎えますので、12 月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいと考えられます。

<インフルエンザ予防接種の副反応>

重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）があらわれることがあり、そのほとんどは接種後 30 分以内に生じるが、まれに接種後 4 時間以内（アナフィラキシーの副反応報告基準）に起こることもあります。その他、ギラン・バレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、脊髄炎、視神経炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作、急性汎発性発疹性膿疱症等があらわれたとの報告があります。

その他、まれに接種直後から数日中に、発疹、じんましん、紅斑、掻痒等があらわれることがあります。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感等を認めることがありますが、通常、2～3 日中に消失します。また、発赤、腫張、疼痛等を認めることがありますが、通常、2～3 日中に消失します。

予防接種を受ける前に

<予防接種を受けることができない方>

- (1)明らかに発熱のある方（一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。）
 - (2)重い急性の病気にかかっている方
急性の病気で薬を飲む必要のあるような方は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
 - (3)本ワクチンの接種液の成分によってアナフィラキシーショックを呈したことが明らかな方
卵等でアナフィラキシーを呈したことがある方
 - (4)インフルエンザの予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
 - (5)その他、予防接種を受けることが不適当な状態にある方
- ※上の(1)～(4)に入らなくても医師が接種不適当と判断したときは接種できません。

<予防接種を受ける前に、担当医師とよく相談しなくてはならない方>

- (1)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患がある方
- (2)過去にけいれんを起こしたことがある方
- (3)過去に免疫不全の診断を受けた方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (4)間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する方
- (5)本ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方

<予防接種を受けた後の一般注意事項>

- (1)予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2)入浴は差し支えはありませんが、注射した部分を強くこすることはやめましょう。
- (3)接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、接種部位を清潔に保ち、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

<副反応が起こった場合>

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診療を受けてください。

問合先 高砂市健康増進課 (Tel 4 4 3 - 3 9 3 6)
(Fax 4 4 3 - 5 9 9 1)